

私の見た和歌山

ナカレ・パラス・スジト

日本語・日本文化研修留学生 インド

日本へ留学することが決まったとき、私の母国の友人や家族の多くは、東京や大阪といった知名度の高い大都市を勧めました。高層ビルが立ち並び、最先端のトレンドが集まる場所こそが「日本」だと思っていたからです。しかし、私が自分の留学先として選んだのは、本州の南端に位置し、豊かな海と深い山々に囲まれた和歌山でした。ここでの生活を始めてから、私の選択が間違っていなかったことを毎日実感しています。大都市のような派手できらびやかなネオンはありませんが、ここには日本本来の美しさと、深い歴史の呼吸が今も息づいているからです。

和歌山での暮らしの中で、私が最初に感動したのは、街のすぐそばに広がる圧倒的な自然の豊かさでした。その象徴とも言えるのが、市民の憩いの場である和歌山城です。春には薄ピンク色の桜が咲き誇り、秋には鮮やかな紅葉が白壁の城を彩る様子は、まるで日本の伝統的な絵画を見ているかのような美しさです。天守閣に登って街を見渡すと、近代的なビルや住宅のすぐ向こうに、ゆったりと流れる紀の川と、青々とした山並みが広がっています。自然と人間がこれほど近い距離で共生している風景は、私の母国ではなかなか見られないものであり、深く心を揺さぶられました。

さらに、和歌山の魅力は都市部だけにとどまりません。少し足を延ばせば、そこには世界遺産にも登録されている高野山や熊野古道といった、日本人の精神性の根源に触れることができる聖地が広がっています。週末を利用して訪れた那智の滝では、断崖絶壁から激しく流れ落ちる水の勢いと、その横に静かに佇む朱色の三重塔のコントラストに言葉を失いました。何百年もの間、数え切れないほどの旅人が、それぞれの祈りを胸にこの険しい参詣道を歩いてきたのだと思うと、歴史の重みが肌を通じて伝わってくるようでした。単なる観光地として消費される場所ではなく、訪れる人の心を静かに癒やしてくれる空間が、和歌山にはたくさん存在しています。

しかし、私がこの街を心から愛するようになった最大の理由は、美しい景色だけではありません。和歌山で暮らす「人」の温かさこそが、私の留学生生活を最も特別なものにして给我しています。留学当初、私はまだ日本語がうまく話せず、電車の乗り方に戸惑ったり、スーパーで欲しい食材が見つけれなかったりして、毎日のように不安を抱えていました。そんなとき、地元の方々はいつも嫌な顔ひとつせず、笑顔で親切に手を差し伸べてくれました。拙い私の日本語をじっくりと聞き、身振り手振りを交えて教えてくれた温かさは、異国の地で孤独を感じていた私にとって、何よりも救いとなりました。

近所のおじいさんやおばあさんから、「これ食べよし」と言って手渡された和歌山特産の「有田みかん」の味は、今でも忘れられません。一口食べると、口いっぱい広がる甘酸っぱさと同時に、地域の人々の優しい真心が心の中に染み渡るようでした。また、和歌山の豊かな食文化にも日々驚かされています。濃厚でありながらもどこか懐かしい味わいの和歌山ラーメン（地元では「中華そば」と呼ばれていることも知りました）や、黒潮の

海の恵みである新鮮なマグロ、そしてお弁当には欠かせない梅干しなど、和歌山には誇るべき美味しいものが溢れています。

留学生という少し客観的な視点からこの地域を見つめると、現在の和歌山には少子高齢化や過疎化、大都市への人口流出、文化の継承といった、日本の地方都市が抱える現実的な課題も見え隠れします。しかし、だからこそ、この地域の暮らす人々が、伝統文化を大切に守ろうとする強い情熱や、私たちのような外国人を家族のように温かく受け入れようとする心の広さをもっていることにつながっていると、強く感じ取ることができるのです。便利さだけを追求した現代の大都市では見落とされがちな「人と人との絆」や「お互いを支え合う文化」が、和歌山には今も色濃く残っています。

私にとって和歌山は、単に言葉や学問を学ぶための滞在先ではなく、一生忘れることのない「第二の故郷」になりました。ここで学んだ自然への畏敬の念と、人々から受け取ったたくさんの優しさを胸に、将来は私の母国と和歌山、そして日本を繋ぐ架け橋になりたいと強く願っています。この素晴らしい街の魅力を、もっと世界の多くの人々に伝えていくことが、私を育ててくれた和歌山への恩返しになると信じています。



Wakayama through my eyes

NAKHARE PARAS SUJIT

日本語・日本文化研修留学生: INDIA

When people think of studying abroad in Japan, mega-cities like Tokyo or Osaka usually come to mind. However, choosing Wakayama as my destination has proven to be the most rewarding decision of my life. Viewed from the fresh perspective of an international student, Wakayama is a hidden gem where Japan's profound history, breathtaking nature, and genuine human warmth beautifully intersect.

The first aspect that captured my heart was Wakayama's awe-inspiring landscape. Landmarks like Wakayama Castle offer a perfect blending of seasonal beauty—such as spring cherry blossoms and autumn leaves—with historical architecture. Beyond the city center lies a deeply spiritual world. Visiting world heritage sites like the Kumano Kodo pilgrimage routes and the majestic Nachi Falls made me realize that Wakayama preserves the spiritual soul of ancient Japan, offering a tranquil sanctuary that bustling metropolises simply cannot match.

More than the landscapes, it is the local people who have defined my study abroad experience. Whenever I struggled with the language or got lost, locals stepped in with incredible kindness. The taste of fresh Arida Mandarins gifted by neighbors, the comforting warmth of local Wakayama Ramen, and the rich seafood culture are memories I will cherish forever.

Living here also opened my eyes to the challenges facing rural Japan, such as an aging population. However, this environment fosters a tightly knit community spirit that is often lost in crowded modern cities.

Wakayama is no longer just a place of study; it has become my second home. The lessons of environmental harmony and human connection I learned here have inspired me to serve as a cultural bridge between Wakayama and my home country in the future.